MACROCOSM

国際交流事後活動ニュース

CONTENTS

2 「国際青年育成交流」事業
8 「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業からの発展
10 ターニング・ポイント（椿景子さん／川上貴之さん）
14 平成19年度都道府県IYEO役員研修
17 国際理解教育支援プログラム
18 第9回「日本青年海外派遣団」（中欧班）40周年記念
19 ブロック大会のお知らせ（北海道・東北／北信越／関東）
20 全国大会（愛知大会）のお知らせ

2007.9 vol.78 マクロコズム

（財）青少年国際交流推進センター

課題別視察　7月13日
（「討議セッション」関連プログラム）

「国際青年育成交流」事業（航空機による招へい）（7月11日～31日）の「討議セッション」（7月15日～19日）プログラムに先立ち、招へい外国青年は、6つの分野（企業の社会貢献、教育、環境、情報・メディア、伝統文化、ボランティア）に分かれて、それぞれ関連施設を訪問しました。各訪問先では、16日から始まるディスカッションの基盤となる見学や、意見交換を行いました。

コース	訪問先
企業の社会貢献	アサヒビール株式会社神奈川工場
教育	杉並区立天沼中学校／和田中学校
環境	日本科学未来館／谷津干潟自然観察センター
情報・メディア	読売新聞東京本社
伝統文化	財団法人講道館
ボランティア	早稲田大学アトム通貨実行委員会事務局

企業の社会貢献　テーマ：企業の社会貢献～「知る」、「気づく」、そして「関わる」

アサヒビール株式会社神奈川工場を訪問し、工場前で記念撮影をする

企業の社会的責任（CSR）に関する講演後の質疑応答の時間にアサヒビールグループの製品を試飲する外国青年

教育　テーマ：学校教育の今を知り、未来を創造する～「子供にとってよりよい教育」に向けて私たちができること：外部人材活用を切り口に～

杉並区立天沼中学校伊藤聡保副校長とNPOスクールアドバイスネットワーク生重幸恵理事長（杉並区学校教育コーディネーター）より学校説明を受ける

杉並区立天沼中学校の1年生の英語の授業を参観し、生徒からの質問を受けて自国について説明する外国青年たち

環境　テーマ：身近な環境問題と世界規模の環境問題のつながりを見つけよう

日本科学未来館にて、「宇宙から見た輝く地球の姿を多くの人と共有したい」という館長毛利衛氏の想いからできたGeo-Cosmosを見学する外国青年

谷津干潟自然観察センター観察指導員の永井祐紀氏より説明を受ける

谷津干潟自然観察センターで「渡り鳥ゲーム」に参加し、自然環境保護の実態を学ぶ外国青年

杉並区立和田中学校にて藤原和博校長より、日本の学校教育と子どもたちの支援方法について学ぶ

情報・メディア

テーマ：メディアシフト
～グローバル化＆一般化するメディア～

読売新聞東京本社を訪問し、全員で記念撮影する

編集局国際部次長伊熊幹雄氏の「ニュースを伝えるということ」という講演を聴く

伝統文化

テーマ：伝統文化と向き合う
～感じる・学ぶ・伝える～

財団法人講道館図書資料部長村田直樹氏より柔道の創始者や歴史についての講義を受ける

講道館内の柔道資料館を訪問し、記念撮影する

講演後、地元の中学生と柔道を体験する外国青年

柔道体験をしたラトビア青年の描いたイラスト

早稲田大学の学生と一緒に打ち水体験をする外国青年

ボランティア

テーマ：ボランティア活動への新しい想い
～個々の体験の共有から生まれる新しい私～

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンターにて、アトム通貨実行委員会事務局根本耕太郎氏の話を聴く外国青年

打ち水体験を通じ、体感温度が下がったことを実感した青年たち

文化交流プログラム（7月20日）

7月20日、参加各国の文化紹介を通じて外国青年と日本青年の相互理解を深める「文化交流プログラム」が実施されました。日本青年として、「国際青年育成交流」事業（航空機による派遣）参加青年、「討議セッション」参加青年・スタッフ、都内視察アテンド・ボランティアの中から有志を募り、31名が参加しました。

時間	内容
11:00～12:00	外国青年と日本青年が協力して準備
13:00～13:30	文化交流プログラムオープニング
13:30～16:00	文化紹介展示（10か国が各国1ブースずつ出展） 文化紹介パフォーマンス（各国ダンスや伝統儀式など） コミュニケーションラウンジ（各国のスナックなど）

▲カナダの紹介に見入る参加者

▲ドミニカ共和国のリズムにのって会場のみんなで踊る踊る

▲マーシャル諸島展示ブース

▲ヨルダンのヘナペインティングを体験する日本青年

モザンビークの展示ブース▶

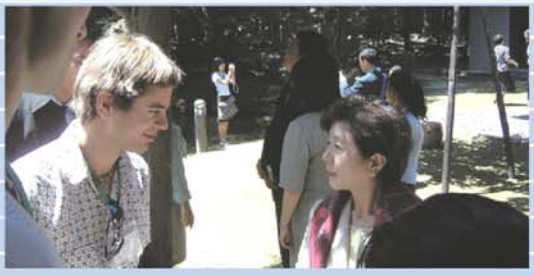
「国際青年育成交流」事業 地方プログラム（7月23日～ 30日）

外国参加青年は、7月23日～ 30日の間、4府県（滋賀県、京都府、和歌山県、鳥取県）に分かれて地方プログラムに参加しました。各地では、表敬訪問や地元青年との交流、施設訪問、2泊3日のホームステイなどが実施され、外国青年にとっては日本に対する理解を深める機会となりました。

訪問府県名	国名
滋賀県	カンボジア、エストニア、東ティモール
京都府	ヨルダン、ラトビア、モザンビーク
和歌山県	カナダ、リトアニア、マーシャル諸島
鳥取県	ドミニカ共和国

滋賀県

比叡山延暦寺を訪問し、僧侶の説明を受ける外国青年



嘉田由紀子滋賀県知事表敬後、歓談するエストニア青年（嘉田知事の肩には東ティモールのギフトがかかっている）

地元青年とともに信楽焼の絵付け体験をする東ティモール青年

京都府

ウェルカムパーティーで、仕事から帰ってきた夫を出迎える時に妻が踊るダンスを披露するモザンビークの青年

かやぶきの里で有名な京都府南丹市美山町「柿の木山」で、地元の人にわら細工を教わる外国青年

さよならパーティーでホストファミリーとともに

和歌山県

スポーツを通じた地域の活性化を目指すNPO会津スポーツクラブの子どもたちが、日本の様々な武道を披露

地元のボランティアガイドの案内を受けながら、ユネスコ世界遺産の熊野古道を歩く

書道教室でホストファミリーの名前を書き、続いて行われたホームステイマッチングで披露した

鳥取県

鳥取三洋電機株式会社を訪問し、吉田取締役から鳥取SANYOの品質経営主義「5S(整理、整頓、清掃、清潔、躾)」について話を聴く

皆成院で住職から日本人の宗教観や仏教と神道の違いについて話を聴き、熱心に質問する青年たち

「流し雛の館」を見学した後、地元ボランティアの方々に流し雛の作り方を教えてもらい、自分や家族の健康を祈って川に流した

「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業からの発展

カンボジア、シェムリアップ州プオック村における社会貢献活動

SIGA(「SSEAYPインターナショナル総会」)の開催にあわせて4月27日～28日、カンボジア・シェムリアップ州にて、シンガポールと日本の既参加青年が社会貢献活動に取り組みました。これは、「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業の事後活動として実施されたもので、孤児院での文化活動や図書の寄付、地元の子どもたちの学習センターで図書室の整備などを行いました。ホー・メン・ワイ氏（シンガポール）からの報告を写真と共に紹介します。

While sharing my experiences in Post 21st Century Renaissance Youth Leaders Invitation Program (Ren Program) Action Plans with some ex-Ren participants in SIS, I mentioned about my intentions of doing some Social Contribution Activities in Siem Reap, Cambodia before SIGA '07. Social Contribution Activities is one of the themes of the Ren Program. Several of them supported the idea and felt that it was a good cause that SIS members could also participate.

A working committee comprising of six ex-Ren members was formed to organize one and a half day program at Puok Village, Siem Reap, Cambodia on 27-28 April 2007. Additionally, we have a team of twenty members with participations from ex-Ren members, SIS members, host family, IYEO members and friends.

We have received contributions of over 200 books, varieties of educational toys, soft toys, board games, stationery sets, tooth brush /tooth paste sets for about 90 children and youths

シンガポール事後活動組織（SIS）の「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業（ルネッサンス事業）既参加者数名とルネッサンス事業事後活動アクション・プランについて経験を共有した際に、私は2007年SIGA開催の前にカンボジア・シェムリアップ州で社会貢献活動を行いたいという思いを口にしました。社会貢献活動はルネッサンス事業のテーマの一つです。参加メンバー数名がこの考えを支持してくれ、シンガポール事後活動組織のメンバーもその活動趣旨に賛同し、参加を決めてくれました。

2007年4月27日～28日にカンボジア・シェムリアップ州プオック村で実施される1日半のプログラムのために、ルネッサンス事業既参加者6名からなる実行委員会が立ち上げられました。更に、ルネッサンス事業既参加者、シンガポール事後活動組織会員、ホストファミリー、IYEO会員及びその友人たち約20名も参加しました。

私たちの元に、フォースクエア孤児院及びボーイズ・ブリゲード学習センターの約90人の子どもたちに贈る200冊以上の本、様々な教育玩具、ぬいぐるみ、ボード・ゲーム、文房具、歯ブラシ／歯磨きセットが寄せられました。「東南アジア青年の船」事業(1979

子どもたちの前で説明する筆者（中央）

今回のプロジェクトのために集めた協賛品のひとつである歯ブラシと歯磨き粉を使って、正しい歯の磨き方を教えるSISメンバー

フォースクエア孤児院にて、全体集合写真

図書室プロジェクト
ボーイズ・ブリゲード学習センターにあった本と、SISメンバー、ルネッサンス事業の既参加メンバーから寄贈された本の整理をしているボランティアメンバー

at Four Square Orphanage and The Boys' Brigade Learning Centre. SPYs of SSEAYP 79 donated book shelves for reading project at Four Square Orphanage. Four laptop computers were also contributed by IYEO staff and friends of SIS to The Boys' Brigade Learning Centre to set up a computer class. We also received books from SWY/Ren03 members from Australia and Canada. The total costs of the project was subsidized by SIS and shared out by all team members.

The event was successfully carried out with the support from SIS, participations from SIS members as well as members from IYEO and SWY/Ren members. Participants have brought joy to children and youths at Four Square Orphanage and The BB Learning Centre with the materials collected and activities.

Several staff from IYEO has expressed hope that Social Contribution Activities will be a tradition of SIGA in the near future. *Let us continue to contribute towards Human Capacity Development and Empowerment projects !*

年)シンガポール既参加青年からは、フォースクエア孤児院の図書室プロジェクトのために本棚が贈られました。その他にIYEOメンバーとシンガポール事後活動組織の有志から、4台のノートパソコンがボーイズ・ブリゲード学習センターに寄贈され、コンピューターのクラスを設けることになりました。またオーストラリアとカナダの「世界青年の船」事業／ 2003年ルネッサンス事業のメンバーからも本が贈られました。今回のプロジェクトの総費用はシンガポールの事後活動組織と実行委員会メンバー全員の援助で賄われました。

このイベントはSISの支援、SIS及びIYEOや「世界青年の船」事業／ルネッサンス事業のメンバーの参加により成功裏に終わりました。参加者は、物資を集めたり、活動したりし、フォースクエア孤児院及びボーイズ・ブリゲード学習センターの子どもたちに喜ばれました。

IYEOメンバーからは、こういった活動が、将来開催されるSIGAの伝統となることを望んでいるという声が聞かれました。*今後とも、人間の能力開発とさらなる発展のためのプロジェクトに貢献していきましょう。*

フォースクエア孤児院で、SISメンバーがシンガポールで集めた協賛品のひとつであるビニールバルーンで遊ぶ子どもたち

ボーイズ・ブリゲード学習センター前で、集合写真を撮るプロジェクトメンバーたち

「姉弟揃ってターニングポイント～世界船マジック」

（第2回「世界青年の船」事業参加青年）NPO法人国際ファシリテーション協会 専務理事　椿（つばき）　景子（けいこ）さん
（第4回「世界青年の船」事業参加青年）在ネパール日本国大使館二等書記官　川上貴之（かわかみたかゆき）さん

今回は「ターニング・ポイント」初の「姉弟対談」です。お姉さんの椿景子さんは、第2回「世界青年の船」事業（平成元年度）に参加、第8回（平成7年度）の事業では、サブナショナル・リーダー、第11回（平成10年度）では、ナショナル・リーダーを務め、その他も管理部員などとして何度も船の事業にかかわられました。商船三井客船のクルーズスタッフ、コミュニケーションを中心とした研修に講師として携わるなど、幅広くご活躍中です。弟の川上貴之さんは、第4回「世界青年の船」事業に参加され、現在は在ネパール日本国大使館二等書記官としてネパールに赴任しておられます。

お二人とも「世界青年の船」事業（以下、「世界船」）の同じ西回り航路を経験され、双方の配偶者も同じ船事業のご出身です。船での体験が今の人生にどのように生かされているのか、ざっくばらんに語っていただきました。

お互いの存在が「世界船」に応募したきっかけ

川上：先に姉が第2回「世界船」に参加して、その友だちがよく家に遊びに来たりしていました。「世界船」参加青年の間には何だか特別な絆みたいなものが感じられて、自分にもそんな世界が持てたらと思う気持ちが自然に芽生えていったのだと思います。

椿：今だから言いますけれど、実は、私にとっての国際交流のきっかけは弟だったんです。私たちは子どもの頃に海外で暮らしていたことがあったのですが、私は帰国後、意識的に外国人や外国文化を遠ざけていた時期がありました。

その頃、弟がJICAの「21世紀の友情計画」に参加したんです。3泊4日の合宿形式のプログラムで、タイ人とディスカッションをしたそうです。弟の話を聞いておもしろそうだったので、私も翌年このプログラムに参加して国際交流に興味を持つようになり、「世界船」には大学4年生のときに参加しました。1月～3月の71日間でスエズ運河を越えてエジプト、ギリシャ、インド、オマーンを訪問できるなんて、すばらしいプログラムだなと思ったんです。

弟の話によると、私が「世界船」に参加しなかったら、弟も参加しなかったことになりますが、私こそ、弟から国際交流の話を聞かなければ、「世界船」に乗ってみようとは思わなかったわけです。

自分探しの旅・自分を変えた旅

川上：僕も姉と同じ大学4年生の時に「世界船」に参加しました。ただ、就職先が既に決まってから乗船した姉と、先行きの見えない中乗った自分とでは、船に求めていたものは少し違っていたかもしれないですね。僕の場合、大学の4年間で将来像をうまく描くことができなくて、その「自分探し」みたいなものを船に求めて乗船したんです。だから船に乗ることになって大学を一年休学することになった時も、ためらいはあまりなかったんですね。ただ、僕にとっての「世界船」は卒業旅行的な思い出作りの旅ではなくて、もっと切羽詰った気持ちが強かったんです。休学してまで乗るんだから、手ぶらじゃ帰れないなって。

椿：私は、3月28日に事業が終了して船を降り、4月2日に入社式を迎え、あっという間に社会人になってしまいました。半年ほどたつと会社勤めに違和感を覚えるようになり、私は何をやっているのだろう、こんなことをやっている場合じゃない、船の中で私

が体験したことを具現化して、世間の皆さんに伝えないといけないと強く感じるようになりました。そして、入社1年半後には会社を辞め、大学院で国際交流についてもっと学ぶことにしました。

両親にはお詫びをしないといけないと思っています。大学を卒業してせっかく社会人になったのに、突然、会社を辞めて大学院に行くなどと言い出し、その後はすぐに結婚してしまったわけですからね。何のために大学院に行かせたのかと親は思ったでしょうね。

仲間から受けた影響

川上：船に乗って、既に決まっていたものを白紙に戻してしまった姉と、もともと白紙の状態で船に乗った弟、どちらも一緒に船に乗った仲間から大きな影響を受けています。僕にとってはこうした仲間の存在が、下船してからの将来を決める上で大きなインスピレーションになっていました。とにかく、船の上でみんなとっても輝いていて、自分も精一杯がんばらないと、いつまでも船上の思い出の中に置いてきぼりになっちゃうんじゃないかと焦りみたいなものを感じていました。結局、船で見つけた「自分探し」の答えは、すばらしい仲間と出会えて感じることができたこのインスピレーションだったんだと思っています。しっかりとした自分を持つことがいつまでも船のみんなとつながっていけるというような……。

もともと国際的な分野で働きたかったのですけれど、船に乗るまでは具体的な方向性ははっきり見えていなかったんです。JICAや外務省、国連機関とか漠然と考えるところはあったんですが、絶対にここ！という強い気持ちもなくて、本腰入れてチャレンジしようと思うには何かが欠けていたんですね。それに対する答えをくれたのが、僕の家内でバングラデシュから参加していたジュンなんです。それまで最貧国のイメージでしかなかったバングラデシュが一気に自分の目指すべき国になって、そこにつながる唯一の道が外務省だったんです。途上国に対する国際協力については高校生のころから関心を持っていたんですが、それをバングラデシュに絞るきっかけをくれた家内の存在はとっても大きかったんです。

ただ、将来のビジョンは見えてきたものの、全く針の穴を通すような将来像……。それに自分だけでなく、自分を信じてそこにすべてをかけてくれるジュンの将来も預かることになって……。今思い返しても相当なプレッシャーでしたね。その後、修士課程に進んで受験に備えたんですが、あの頃は本当に運が向いていたんだなぁといつも思います。結果的に家内の母国語であるベンガル語で採用されたり、外交官の外国籍の配偶者との結婚が認められるようになったり……。人生の運をあの時すべて使い果たした感じですけど(笑)

第2回「世界青年の船」事業の学生デリゲーションの仲間と

椿：実は、弟は単純に「強運の持ち主」というわけではないんですよ。とにかく大変な努力家なんです。高校生の頃は特にそうでしたよ。ひたすら勉強していて、もっと外に出ればいいのにと思っていました。感心するくらい勉強していました。

川上：当時はどことなく、人に頼らないで自分でがんばらなきゃいけない、みたいな寂しい考え方をしていたんですね。この点、姉は逆でしたね。人脈とネットワークを大切にして、人に与えて自分も与えてもらうようなところがあって。社会に出て仕事をするようになると、姉のような考えでなければ物事は進まないということがだんだん分かってきたんです。世の中はgive & takeで成り立っているんだって。そして、自分をもっと「開放」しないと何も展開しないんだということも。この点については家内からもすごく影響を受けました。姉と良く似ているんですね、人との交流を大切にするところなんかが。

椿：国際交流をする人なら、相手とつながっていない空白期間があったとしても、再会した時には、いつでもかつてのように分かりあえますね。これは、おそらく「同じ釜の飯を食った」という経験が根底にあるからでしょうね。自分が相手に対して持ち続けている信頼感かもしれません。私にとってのベースは、やはり、第2回「世界船」ですね。あの船に乗らなかったら、今の私はなかったんです。あの船の中で、人とのつながり方を徹底的に訓練されたように思うのです。

川上：確かに「世界船」での経験が、今の自分のアイデンティティを形成する上でのコアになっていると言えると思います。国際交流は開放的になることが大切ですね。外交は国益を守ることが基本にありますが、そうした中で、自分としては「世界船」の中で感じることのできた「異文化が調和できる感覚」を、日々の仕事をしていく中で、ちょっとした「スパイス」として効かせていけたらいいなと思っています。

船上で仲間と（1992年2月）

バーチャル（仮想）の世界と現実の世界の狭間で

椿：私が「世界船」に参加した当時は、途中の寄港地で順に外国青年とお別れしていくんです。今は、外国青年も日本で参集して、日本で解散する形になっていますね。

川上：僕の時は、1月18日に乗船し、バルセロナ、オマーン、最後にシンガポールで順次外国青年とお別れしました。外国青年の下船は15年経った今でも鮮明に覚えています。あのような残酷な別れは船でしか味わえないものでしょうね。いまだにあの紙テープが「プチッ」と切れる感触を覚えていますから。

椿：私は、寄港地で外国青年を降ろしていくのはとてもよかったと思っています。あの別れこそがドラマを作っているんです。外国青年と順次別れていかなくてはならないから、また会いたいと強く思うし、その想いがあったからこそ、同窓会組織を立ち上げる力がわいてきたんです。

一方で、最後の寄港地で外国青年が降りて、そのあと日本に帰港するまでの1週間余を日本青年だけで過ごすの

ですが、日本人同士で結束を固めるとてもいい時間になりました。

川上：僕もそうなることを期待していたんだけどね。でも外国青年が下船した後、ものすごく大きな虚脱感に襲われて、何だか引きこもりみたいになっちゃって。ああいうところはまだ子どもだったな。今さらながら日本人ＰＹ（参加青年）にはお詫びしたい気分だよね（笑）。

船の生活において、僕の中では日本人ＰＹは現実の世界で刺激を与えてくれる存在で、外国人ＰＹは、いわば「バーチャル（仮想）」な世界で刺激を与えてくれる存在でした。船という一つの混沌とした空間に両者がいるから、「世界船」はとってもユニークなんだと思います。今でも参加に関心を持っている人には、乗船されることを強くお勧めしていますよ。

椿：日本青年は、日本という共通の背景があるから、いつも現実的な存在だったけれど、外国青年は、船の上という特殊な空間の中だけのバーチャルな存在という気はしましたね。でも、事業終了後に再会すると、現実の存在になるんですよ。特に、本人の国で会うとその現実味はもっと強くなる。オマーンの友人の家に遊びに行って、彼の家族と一緒にご飯を食べて、彼の実際の生活を見たとき、ああ、この人は本当はこういう人だったんだと、船の中では気づかなかった一面が見えてくることがありました。それに、10年とか20年ぶりに再会したのに、「あれからこんなことがあってね…」といろんな悩みまで話したりできます。他の友人だったら、なかなかそんな話まではできません。だから、彼らはすばらしい財産だと思うのです。しかもそのすばらしい財産が世界中に存在するのです。

「世界船」という事業は、一度参加したらそれで終わり、というプログラムではないんですね。事業後も一生かけて、各個人の中で生き続けていくものなのだと思います。

家族写真（ネパール・ポカラにて　2007年5月）

椿　景子（つばき　けいこ）
1990年 上智大学文学部卒業後、生命保険会社勤務。
1994年 上智大学大学院修了後、1996年より（財）青少年国際交流推進センター職員として勤務。2000年より非常勤職員としての勤務の傍ら、現在は講師としてコミュニケーションを中心とした研修を担当。

川上　貴之（かわかみ　たかゆき）
1995年 筑波大学大学院修了
同年　外務省入省
インド・コルカタでベンガル語研修、その後在バングラデシュ日本国大使館勤務等を経て、2006年8月より在ネパール日本国大使館にて二等書記官として勤務。

取材を終えて

姉と弟が互いに尊敬しあっていることが話の随所に感じられるさわやかな対談でした。椿さんが最後におっしゃった「将来、夫と息子といっしょに世界各地にいる「世界船」の友人たちを訪ねて『本当のあなたはどんな人だったの？』と確かめて歩きたい」という言葉を聞いて、事業終了後、何年たっても貴重な体験として心の中で生き続ける「世界船」の威力を垣間見た気がしました。

平成19年度都道府県IYEO役員研修

平成19年6月16日（土）～17日（日）、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、25都道府県IYEOから35名、本部役員18名、運営委員･実行委員10名が参加して、平成19年度都道府県IYEO役員研修が行われました。

今年度は、IYEO活動方針「1．相互理解を深めるための自己研鑽を図ろう」に焦点を当て、参加者の「**発信力を高める**」ことをねらいとしました。運営委員・実行委員を中心に、以下の3部構成で実施されました。

第1部　ワークショップ：考え方・概念理解から、自分自身に落としこむため、体験しながら学ぶ
- (ア) 自分の特性を知る（リーダーシップタイプの分類）
- (イ) リーダーとして、いかに発信していくか、現状を知り目標を立てる（発信力を高める）
  『「発信力」＝「A.発信すべき情報、意見を持っている」＋「B.発信できるスキルを持っている」』と考え、「B」について演習

第2部　小グループディスカッション
- (ア) ワークショップ振り返り、気づきの共有（分科会メンバーとの顔合せ）
- (イ) ワークショップでの学びをふまえ、実際の課題に取り組む

第3部　分科会

概要

6月16日（土）	
11：30～12：30	事前ミーティング
12：30	受付
13：00～13：30	開会式・オリエンテーション
13：45～17：15	**第1部：ワークショップ**
18：00～18：50	チェックイン・夕食
19：00～21：00	**第2部：小グループディスカッション**
21：30～	懇親会
6月17日（日）	
9：00～11：00	**第3部：分科会**
11：15～12：00	全体会（内容共有、振り返り）、閉会式

分科会について

分科会１：組織マネジメントの基本（事務局の実務ノウハウと注意点について）
分科会２：コミュニケーションスキル向上（コミュニケーションとは？発信者としての心得）
分科会３：国際交流事業受入れのノウハウ（全体計画の立て方と準備の流れ、実行委員会の設計）
分科会４：PRを使った組織の活性化（幅広い広報について、WEB/紙媒体の広報について）

参加者のコメント

〈分科会１〉

長野県IYEO事務局長
第7回「世界青年の船」事業
多賀野　寿美

分科会１では、無作為に作られたグループで、組織の役員を決めるというワークを行いました。それぞれの役柄には求められる性質が考えられますが、私たちのグループでは、なかなか会長が決まりませんでした。最終的には力不足と思いつつも私が会長に決まったのですが、このワークを通じて、地方のIYEOの縮図を見たように感じました。

構成員の少ないIYEOでは、自分には向いていないと思うような役が回ってくる可能性が高いかもしれません。でも、その時は逃げずに、自分がその役にふさわしくなれるように努力することが必要なのだと思いました。

実際の組織での私は、まだまだ頼りない事務局長ですが、この役を通じて自分を高めていけるように、がんばりたいと思います。

〈分科会２〉

北海道IYEO事務局員
第17回「日本・韓国青年親善交流」事業
笹村　健児

この分科会では、国際交流のスキルアップだけではなく、日常生活に必要なコミュニケーションの基礎を改めて学んだような気がします。

グループディスカッションでは、「コミュニケーションとは」「コミュニケーションに必要なものとは」について気づいたことをお互い列挙してみたのです。それはごく当たり前の事柄であるのに、つい忘れてしまいがちなことばかりでした。

現在、私は仕事の傍ら地域の合唱団で指揮･指導をしています。そこでさっそく、分科会で教わった「４コーナー」をより簡単にしたものを応用して取り入れてみました。練習前のわずかな時間ですが、団員の意気込みや今日の気分などを発表しあうことにより、指揮者側の「一方通行」にならぬよう心がけています。

〈分科会3〉

熊本県IYEO事務局長
第11回「国際青年育成交流」事業（ミャンマー）
柿本　満美子

分科会３では、国際交流事業受入れのメリットから実行委員会での役割分担、人員配置やプログラム組立てに至るまでを参加者全員で楽しく考えることができました。中でも実際の受入れを想定したワークショップではお互いのアイディアを出し合ったことにより、これからの国際交流事業受入れをより幅広く効率的に進める意欲が湧いてきました。

また、今回参加した皆さんと意見を交換し、悩みを共有しているうちに、漠然としていた自分の考えをはっきりと再認識することができました。今回の研修で学んだことをぜひこれからの活動に役立てていきたいと思います。

〈分科会4〉

大阪府IYEO研修部
第33回「東南アジア青年の船」事業
田中　達也

「発信力」の一つでもある広報には、どのような方法があるのかを参加者で話し合いました。

大きく分けて広報の方法には、「WEBを使った広報」「紙媒体の広報」を挙げることができます。

WEB広報はすぐに情報公開・更新が可能であり、さらにWEBサイトを閲覧可能な人は誰でも情報を得ることができます。

また、紙媒体による広報では、手書きによる心のこもった温かいチラシなどが作成可能であるという利点があります。

それぞれの方法について、より効果的で誰でも簡単にできる広報について学びました。

外部の人々へ向けてIYEOの活動を発信するだけでなく、内部の会員がお互いの活動情報を共有できるような広報活動を行うことが必要だと感じました。

CENTERYE「国際理解教育支援プログラム」

「国際理解教育支援プログラム」は、平成16年から開始された(財)青少年国際交流推進センターの自主事業です。内閣府青年国際交流事業既参加青年等の在日外国青年を日本の学校やそれに類する施設に派遣して、国際理解を推進することを目的としています。

平成19年度第1回のプログラムでは、東京都新宿区立市谷小学校に6名の外国人講師を派遣し、総合的な学習の時間を使って「国際理解教育支援プログラム」を実施しました。

日　　時：平成19年7月3日(火)　10：00～13：45
場　　所：東京都新宿区立市谷小学校体育館・各教室
テ　ー　マ：「各国の食物を通じて日本とは異なる国の文化、歴史、生活習慣、自然を学ぶ」
対象児童数：75名(6年生　2クラス)

<スケジュール>

時間	プログラム	会場
10：40～	講師自己紹介・母国語であいさつ	体育館
10：50～12：00	各国の様子について講師と意見交換 ※各国のブースを体育館に設置し、児童は興味のあるところに行き、事前に予習していた内容を基に、自由に意見交換する。	
12：00～12：10	質疑応答（全体）自己紹介	
12：15～13：00	給食	各教室に分かれて
13：00～13：45	先生方との意見交換	校長室

<派遣講師>

氏名	出身国	参加事業
Mr. Jaime Collado	フィリピン	SSEAYP26
Mr. Brian Boo Gozun	フィリピン	SSEAYP24
Mr. Yong Barnas	インドネシア	SSEAYP16
Mr. Chew Kim Soon	マレーシア	SSEAYP26
Mr. Murat Sakalsiz	トルコ	SWY17
Ms. Sheila Carrillo Alma	プエルトリコ	既参加青年からの紹介者

◀トルコのMurat Sakalsizさんが児童にトルコの文化、歴史、食べ物についてパワーポイントを使って紹介する様子

プエルトリコのSheila Carrillo Almaさんが、プエルトリコで有名な食べ物について写真を用いて紹介する様子▶

▼外国人講師の自己紹介や説明を熱心に聴く児童たち

訪問した6名の外国人講師と新宿区立市谷小学校の校長先生・担当教諭を囲んで▶

第9回「日本青年海外派遣団」（中欧班）40周年記念

「あうとばあんの仲間」40周年は“半蔵門”に集う！

昭和42年度 第9回「日本青年海外派遣団」（中欧班）
日賀野　宏子（旧姓若林）

平成19年6月19日～21日、昭和42年度第9回「日本青年海外派遣団」中欧班は、「あうとばあんをめぐる仲間達40周年記念の集い」を開催しました。

会場は、直前直後研修に利用した懐かしの「半蔵門会館」（現在は名前も建物も変わっていましたが）。40年前、海外旅行がまだ珍しかった頃、私たちは西ドイツを主要訪問国に42日間の研修に旅立ちました。当時は女性の参加が認知されがたい時代で、総勢13名中女性が6名というメンバー構成に「女性が多くて何かと気遣いが大変でしょう」と団長は周囲から同情されていたそうです。

帰国後は全国各地で集いを持ち、現在、団長83歳、副団長92歳、最年少の団員が62歳となりました。それでも、今回も「小学校の遠足に行くような気持ち」での再会です。「過去にあったいろんな出来事が『今』を創っている。今、ここにある幸せをかみしめています」など近況の発表。

定年退職後、議員になった方、この派遣をターニングポイントに今も青少年育成にかかわっている方、子育て支援ならぬ孫育て支援真最中の方など話題は尽きません。2日目は文化視察と称して、お台場から水上バスで隅田川遊覧など、プログラムも満載です。

ただ、当日までは13名全員集合の予定だったのが、体調不良で1名が欠席となり残念でした。（この欠席者が1か月後に病没され、仲間が欠ける無念さを痛感しているところです）

40周年を記念して、思い出の場所に集った仲間たち。菅野団長（1列目右から2人目）、山下副団長（1列目左から2人目）、筆者（2列目左から3人目）

私たちは、ドイツの高速道路から命名した「あうとばあん」という回覧ノートを帰国直後から始め、事後活動や近況などの情報交換をしてきました。大学ノートに家族の写真や活動広報などが貼られるもので、自身の生活の反省や、触発されての奮起にも役立ちました。子育てや仕事で多忙を極めた頃は、13名全員を一周するのに3年余も要したのに、少しゆとりができた今では、1年周期程度と早いペースとなり、現在、vol.17を回覧中です。直近3冊位が届きますが、開封時のドキドキ・ワクワク感はいつも変わりません。家族も覗き込んで楽しんでいます。

近年、インターネットや携帯電話でのメール交換等、簡便な方法は多種ありますが、私たちのノートは「仲間を信じて、時々の心情を存分に書ける。文章や行間に溢れる想い、13名の人生がここにある」という共有財産として大切な宝物です。40周年の今回は、すべてのノートを持ち込んで、皆のそして自分の歴史を振り返りました。

20日夕刻、前述の会場近くにIYEOオフィスがあると聞き、4名が表敬訪問しました。

入り口のドアに「歓迎」の言葉がドイツ語で表示されているのに大感激！　若くはつらつとしたスタッフ20名ほどを見て、IYEOの発展が確信できたことも40周年の収穫でした。

IYEOのオフィスを表敬訪問する。筆者（歓迎ポスター左隣）他、若手団員？たち

私たちの「宝物」!! 1967年から続いている回覧ノート「あうとばあん」　現在、17冊目を回覧中

ブロック大会のお知らせ（北海道・東北／北信越／関東）

北海道・東北ブロック大会(北海道)

- **日時**：10月6日(土)～7日(日)（13:00～受付　13:30～開会式）
- **場所**：北海道立道民活動センター（かでる2・7）（札幌市中央区北2西7）
- **アクセス**：JR札幌駅南口より徒歩約8分
- **メインプログラム(予定)**：札幌市内をグループ毎に巡る体験参加型ワークショップ
- **問い合わせ先**：実行委員会事務局　生垣琴絵　hokkaido@iyeo.or.jp
- **申込み締切**：9月10日

北信越ブロック大会(新潟県)

- **テーマ**：「人づくり、モノづくり」
- **日時**：10月6日(土)～7日(日)
- **場所**：ガレッソホール(新潟駅となり)
  〒950-0086　新潟市中央区花園1丁目2番2号 コープシティ花園(ガレッソ)
  TEL：025-248-7511　　http://www.garesso.jp/
  宿泊　東横イン新潟駅前(新潟駅となり)　http://www.toyoko-inn.com/hotel/00060/index.html
- **メインプログラム(予定)**：NPO法人EDO（ガーナ共和国の北東部地域と日本の教育を支援するNPO法人)代表、オーガスティン・アウニさん(長岡市在住)による講演
- **問い合わせ先**：実行委員長　平澤正　niigata@iyeo.or.jp

関東ブロック大会(埼玉県)

テーマは「彩発見・彩認識・彩出発」～愛はいいよ～埼玉IYEOです！
「彩の国さいたま」で、帰国報告会や分科会、講演といった今回のプログラムを通して、
一人一人の「彩発見・彩認識・彩出発」を考えてみませんか。

- **日時**：平成19年10月13日(土)～14日(日)（13：00～受付　14：00～開会式）
- **場所**：大宮国体記念会館　〒330-0805　埼玉県さいたま市大宮区寿能町1-4
  TEL.048-643-1515　FAX.048-644-3721
- **アクセス**：東武野田線大宮公園駅より徒歩3分　JR大宮駅東口よりタクシーで10分
- **プログラム(予定)**：

1日目	2日目
アイスブレイク	講演会
帰国報告会	ワークショップ
分科会	オプショナルツアー
懇親会	

- **問い合わせ先**：「関東ブロック青少年国際交流を考える集い」saitama@iyeo.or.jp
  埼玉IYEOホームページ　http://saitamaiyeo.blog80.fc2.com
  ご参加いただくすべての人が、「彩発見・彩認識・彩出発」について考え、楽しめるプログラムになるようスタッフ全員でがんばっています！みなさまのご参加を心よりお待ちしております☆

青少年国際交流事業事後活動推進大会
日本青年国際交流機構第23回全国大会
第14回青少年国際交流全国大会フォーラム
愛知大会

みなさん　こんにちは！
今年の全国大会は、IYEO設立後、全国で20年ぶり、2度目の愛知県開催です。
そして、今回の愛知大会のキーワードはずばり「文化」！

★歴史文化→　織田信長・豊臣秀吉・徳川家康ら歴史的人物を輩出し、徳川御三家のひとつでもある尾張藩の地でもあります。
★モノづくり文化→　世界のトヨタはここ愛知から始まりました！
★食文化→　ひつまぶし・エビフライ・味噌煮込み・ミソかつ・手羽先と旨い物だらけ！

日本の歴史・文化形成（戦国時代）に大きな役割を果たしてきた「愛知」で開催される全国大会にて、IYEOの縦・横の繋がりを深めましょう！愛知県IYEOは、楽しく有意義なひとときを過ごしていただける、とっておきのプログラムを準備中ですので、どうぞお楽しみに！

Love & Wisdom　～文化を愛し、つながりを知る～

1. 主　催　内閣府政策統括官（共生社会政策担当）
日本青年国際交流機構
（財）青少年国際交流推進センター
愛知県青年国際交流機構

2. 後　援　愛知県

3. 主　管　日本青年国際交流機構第２３回全国大会
愛知大会実行委員会

4. 期　日　平成１９年１２月１日（土）～２日（日）

5. 会　場　ナチュラルホテル　エルセラーン
（ＪＲ名古屋駅　太閤通口すぐ！）
愛知県名古屋市中村区椿町1-23
TEL:052-459-5344
http://www.htl-el.com

6. 参加費
①宿泊一般（ナチュラルホテル・ツインのシングル利用）/
１名･･･22,000円
②宿泊一般（ナチュラルホテル・ツイン）/
１名･･･19,000円
③宿泊一般（チサンホテル・シングル）/
１名･･･16,000円
④非宿泊 / １名･･･8,000円
⑤パネルディスカッション＆分科会のみの参加者 /
１名･･･3,000円

7. 参加申込方法
同封の振込用紙に必要事項を記入の上、参加費のみお振込みください。
（注）宿泊タイプには、「6. 参加費」の番号（①～⑤）をご記入ください。
※先着５０名様には、愛知県IYEOの全国大会記念Tシャツをプレゼント致します！！

【振込郵便口座】
日本青年国際交流機構第23回全国大会愛知大会実行委員会
00860-8-187036
※キャンセルの場合には、キャンセルまでに要した費用を差し引き、返金致します。

8. 申込み締切日　10月31日（水）（振込み日有効）

9. 参加申込先/問い合わせ先
愛知県青年国際交流機構事務局　野田、表口
TEL 080-3633-9121（野田）090-3153-3762（表口）
E-mail:zenkoku@iyeo-aichi.jp　http://www.iyeo.or.jp/aichi/

10. プログラム

第1日目・12月1日(土)

12：30　受付
13：30　開会式
13：50　表彰式
14：00　パネルディスカッション
　　スポーツ・教育・企業・伝統と、分野の違う立場のプロフェッショナルのみなさんに、それぞれの切り口で「文化」を語っていただきます。
15：45　テーマ別分科会　※下記参照
17：15　チェックイン
18：00　写真撮影
18：30　懇親会　(2時間程度を予定しています)

※ 2次会、同窓会についても設定させて頂きます。
※ 同窓会については、事前にお問い合わせ下さい。場所、内容等のご相談を承ります。

第2日目・12月2日(日)

8：30　チェックアウト
9：00　内閣府青年国際交流事業帰国報告会
11：00　閉会式
11：30　解散/地域理解研修(オプショナルツアー)

■ テーマ別分科会 ■

1. **歴史文化**①<日本甲冑武具研究保存会>
戦国時代には必須というべく使われてきた甲冑。当時の様子を映像や現物を見て学び、自分流のオリジナル兜を製作する。

2. **歴史文化**②<郡上おどり>
日本三大盆踊り、日本三大民謡であり1996年に国から重要無形民俗文化財として指定された郡上おどり。江戸時代から始まり、現在でも毎年7月中旬から9月上旬まで延べ32夜開催されている。その歴史を学び、動作の意味を理解しながら、実際に踊りを体験する。

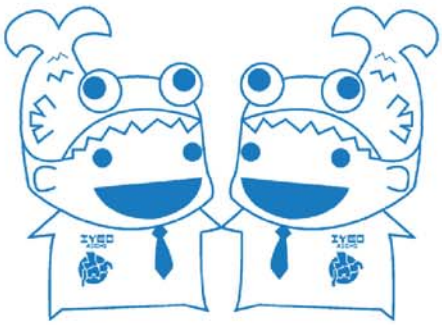
3. **モノづくり文化**<豊田自動織機>
1890年に開発された豊田式木製人力織機から最新鋭のフォークリフトまで発展してきた「ものづくり」。会社の歴史を辿り、その発達の過程における分岐点での考え方を知る。

4. **組織運営**①<中日新聞社>
情報提供とは、どの視点から伝えることがより効果的なのか。江戸時代後期から文化として伝えられている「新聞」を題材にし、情報提供(広報)のより効果的な方法を探る。さらに日本と海外の情報提供を比較することにより、日本の特性を探る。

5. **組織運営**②<アイシン精機>
現在注目されているCSR(企業の社会的責任)についてアイシン精機の取組を学び、ボランティア組織の運営や活性化に応用できるような手法や、ボランティア組織が企業と連携する方法を探る。

＊地域理解研修(オプショナルツアー)のご案内＊
① 『八丁味噌の郷～味噌蔵や味噌の製造工程を見学』＋『モリコロパーク～サツキとメイの家見学』
② 『トヨタ博物館～ 19世紀末から約100年間の自動車発展の歴史を見学』＋『モリコロパーク～サツキとメイの家見学』
③ 『世界のタイル博物館(INAXが運営)～世界の装飾タイルを見学』
④ 『名古屋城～甲冑着付け体験』
⑤ 『ノリタケの森～世界ブランド、ノリタケ作品や陶磁器の絵付けを見学』＋『産業技術記念館～織機の自動化や自動車の生産方式等、日本産業発展の歴史を見学』

※ オプショナルツアーについては、別途料金(交通費、昼食費、入場料)を当日頂きます。
(11月24日以降にキャンセルされる場合は、キャンセル料が発生します。)
※ 各コース40名限定ですので、先着順の決定とさせて頂きます。但し、全日参加(宿泊)の方を優先的にご案内致します。



追悼式のお知らせ
9月23日（日）

第28回「東南アジア青年の船」事業の際、ブルネイにおける事故で亡くなられた方々の追悼式を9月23日（日）16:00 ～ 17:30に行います。

会場及び詳細についてはIYEOのHPをご覧ください。

第15回「青年の船」村山雅美団長の功績を称える式典開催のお知らせ

第15回「青年の船」加藤　恒光

第15回「青年の船」の団長で、元南極観測隊隊長で日本人初の南極点到達を果たされた村山雅美氏が、昨年11月5日、88歳で亡くなられました。1953年～1956年にかけ3次にわたるヒマラヤ・マナスル遠征隊に参加されるなどのご功績を称え、この度、ネパールのヒマラヤの麓ポカラにあるフェワ湖対岸の高台にある仏舎利塔の敷地内に記念碑を建立することになりました。以下の通り、記念式典が開催されますので、ご案内申し上げます。

日付：平成19年11月17日（土）
場所：ネパール・ポカラのフェワ湖対岸
問合せ先：G.Sポーデル氏（日本語対応可）e-mail: ymtrek@ccsl.com.jp
加藤恒光（e-mail: gazou_kougei_kato@ybb.ne.jp
fax: 082-439-0848）

現地までの航空券は各自で手配願います。なお、ネパールの天候は不安定で、ネパールの国内線の発着に影響を及ぼす場合がありますので、余裕のある日程を組むようお勧めします。

今月号の写真

第3回
グローバル・フォト・コンテスト
日本青年国際交流機構（IYEO）
会長賞
タイトル：「水がめの中で」
撮 影 者：平山雄大
（平成18年度「国際青年育成交流」事業（カンボジア））
撮影場所：バッタンバン（カンボジア）

カンボジア、バッタンバン州にあるノリア孤児院（ノリア寺のお坊さんが運営している孤児院）の子どもたち。壊れた水がめの中で遊ぶ仲良し4人組。

編集後記

今回のターニング・ポイントの取材中、語学の学習について川上さんが語った印象的なひと言。「英語学習は、単語帳とにらめっこして、単語を覚えるのが目的ではなく、英語を使えるようになるのが目的。僕なら英語の本を読むようにする。本を読めば、話題も増えるし、物事をさまざまな角度から見ることができるようになる」 単語の丸暗記にエネルギーを費やしていた編集者にとっては、はっとさせられる言葉でした。（ふ）

MACROCOSM 9月号 vol.78

2007年9月1日発行（隔月発行）
編　集　マクロコズム編集委員会
発　行　（財）青少年国際交流推進センター
〒103-0013　東京都中央区日本橋人形町
2-35-14 東京海苔会館6階
TEL: 03-3249-0767　FAX: 03-3639-2436
e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp
URL: http://www.centerye.org (CENTERYE)
http://www.iyeo.or.jp (IYEO)
編集協力　内閣府政策統括官（共生社会政策担当）
日本青年国際交流機構（IYEO）
定　価　220円（210円）
印刷所　株式会社デックス
TEL: 03-3400-8089　FAX: 03-5469-5270

since 1884 Pioneer Of Cruise

Do Cruise 2007 目覚めれば、新しい海。 http://cruise2007.jp

「クルーズイヤー2007」の公式スポンサーとしてクルーズを盛りあげるイベント・キャンペーンに協賛しています。

MOPAS にっぽん丸

さてさて、次はどの数字に落としましょうか…。そんな思わせぶりのセリフとともに、彼女はルーレットのエッジに玉を滑らせた。小瀬欽代、にっぽん丸でカジノディーラーをつとめるディーリングのプロだ。彼女の手を離れ、猛スピードで回転する玉の行方を固唾を呑んで見つめるお客さまたち…そして一喜一憂。小瀬はにっぽん丸とともに、こうした夜を8年間も過ごしてきた。「難しいんですよ実は。いえいえ、狙った数字にボールを落とすことではなく、毎晩お客さまを盛り上げることがです」と話す小瀬。日本の船では金銭のやり取りが禁止されているため、時として「ただのゲームじゃないか」と辛辣なお言葉を頂戴することもあるのだという。そこを上手く乗せて、飽きさせずにカジノリピーターを増やしていくのも彼女たちの腕の見せ所だ。「にっぽん丸のカジノでは、ギャンブル・ディーラーにありがちなクールなプロ意識なんて必要ありません。むしろ、お客さまの一喜一憂に同化して、その笑顔を見ることが何よりも幸せ、と感じることができなくては」。そんな彼女が「次、5番を狙ってみましょうか」と言って放った玉は、彼女の宣言通りの結果へと…いやいや、さすがはプロフェッショナル。お見事な腕前だ。

もてなしにも、品質があります。にっぽん丸の船旅

大連・旅順・青島クルーズ※
横浜→神戸→大連または旅順新港→青島→神戸→横浜
2007年10月9日(火)～10月19日(金) 390,000円※※

日向・奄美クルーズ 神戸発着
神戸→細島→古仁屋→神戸
2007年10月24日(水)～10月28日(日) 198,000円※※

にっぽん丸で航(い)く サンタクルーズ
横浜、横浜/名古屋、名古屋、高松、広島、神戸の各地発着
2007年12月中旬～下旬の1～2泊 44,000円(横浜発着)

ニューイヤー グアム・サイパンクルーズ※ 神戸発着
神戸→横浜→グアム→サイパン→横浜→神戸
2007年12月27日(木)～2008年1月6日(日) 450,000円

新春の瀬戸内海周遊クルーズ 神戸発着
神戸→(瀬戸内海)→神戸
2008年1月7日(月)～1月9日(水) 92,000円

2008年世界一周クルーズ 横浜・神戸発着
横浜・神戸発着(各101日間)海外17カ国24港
2008年4月7日(月)～7月17日(木) 2,980,000円

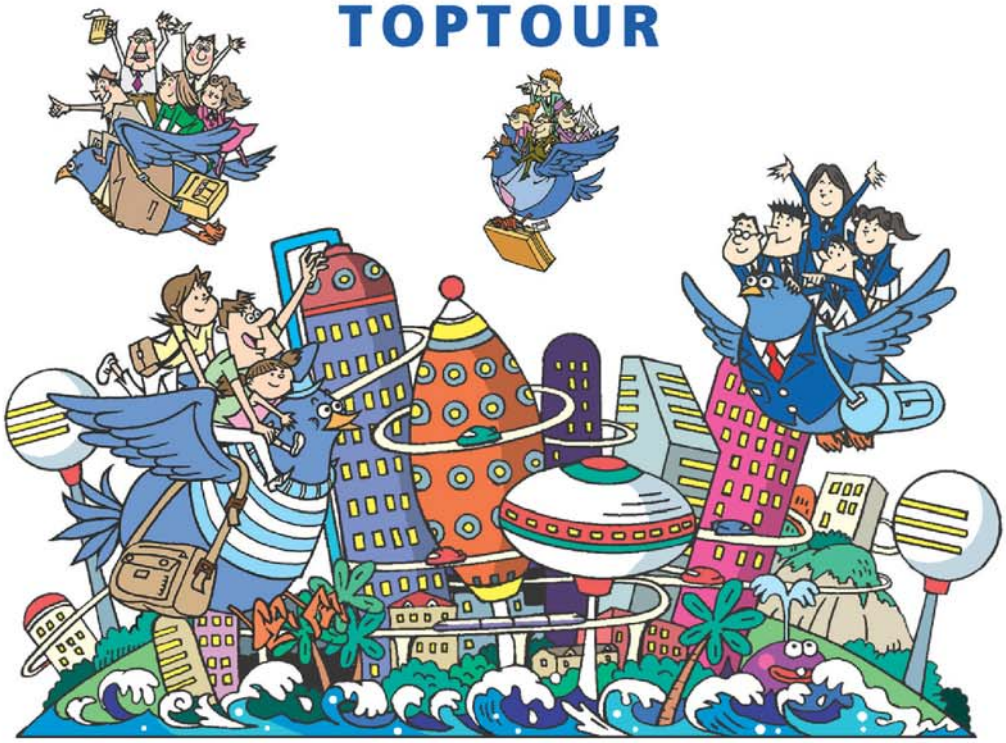
そのほかのクルーズもご用意しております。表示の代金はステートルームC1室を2名でご利用の場合の大お一人様(全食事・イベント付)の旅行代金です。※:各種のコースがございます。※※:熟年割引プランがあります。

商船三井客船 〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル5F MOPASは商船三井客船の愛称です。

お問合わせは、各クルーズ取扱旅行会社またはMOPASクルーズデスクへ。 クルーズデスクフリーダイヤル 0120-791-211 http://www.mopas.co.jp

The 50th Anniversary
2006年1月31日
50

TOPTOUR



東急観光株式会社は創立50周年を機にトップツアー株式会社として生まれ変わりました。

旅は人と人とのコミュニケーションの架け橋
旅は人と自然が触れ合う地球の扉
旅は人と歴史をつなぐ時空間のトンネル
そんな旅を創造し、提案する［旅行インテリジェンス企業］
それがトップツアー株式会社

東急観光は50年にわたる第一幕からトップツアーとして新たな第二幕のステージに立ちました。
みなさまから愛される企業をめざして・・・・・・・

東急観光が社名を変えました。
トップツアー株式会社
TOPTOUR
国土交通大臣登録旅行業第38号 © 日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号 http://www.toptour.co.jp http://toptour.jp

人が行き、人が集う、それが旅。

マクロコズム 2007年1月号 通巻七八号隔月発行 定価二二〇円（本体二一〇円）編集協力：内閣府政策統括官（共生社会政策担当）日本青年国際交流機構